

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	研究科の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン シテンノウジガクエン 学校法人 四天王寺学園									
フリガナ大学の名称	シテンノウジダイガクダイガクイン 四天王寺大学大学院 (Shitennoji University Graduate School)									
大学本部の位置	大阪府羽曳野市学園前三丁目2番1号									
大学の目的	本大学院は、聖徳太子が四天王寺を創建された精神にのっとり、学術の理論および応用を教授研究し、その深奥を極めて、文化の進展と人類の福祉に寄与することを目的とする。									
新設学部等の目的	<p>本学の建学の精神に基づいて、看護の独自性・専門性を追求しつつ、今後の知識基盤社会において実践・研究・教育の場で活躍できる高度専門職業人・研究者・教育者である人材の育成を目的とする。</p> <p>【博士前期課程】 多様化・複雑化している人々のニーズに応えることのできる高度専門職業人・研究者の育成。</p> <p>【博士後期課程】 看護実践・看護学の発展に寄与できる研究者・教育者の育成。</p>									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】看護学部看護学科 14条特例の実施	
	看護学研究科 (Graduate School of Nursing)									
	看護学専攻博士前期課程 (Master's Program of Nursing)	2	6	—	12	修士 (看護学) (Master of Science in Nursing)	平成32年4月 第1年次	大阪府羽曳野市学園前三丁目2番1号		
	看護学専攻博士後期課程 (Doctoral Program of Nursing)	3	3	—	9	博士 (看護学) (Doctor of Philosophy in Nursing)	平成32年4月 第1年次	大阪府羽曳野市学園前三丁目2番1号		
計										
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更)	なし									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	看護学研究科看護学専攻博士前期課程	38科目	27科目	11科目	76科目	42単位 30単位				
看護学研究科看護学専攻博士後期課程	12科目	9科目	0科目	21科目	18単位					
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任	任教員等
		教授	准教授	講師	助教	計	助手	名	名	
	新設	看護学研究科看護学専攻博士前期課程	14 (14)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	14 (10)	
	既設	看護学研究科看護学専攻博士後期課程	15 (15)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	3 (2)	
	計		15 (15)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	— (—)	
	既設	人文社会学研究科人間福祉学専攻博士前期課程	5 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	3 (2)	
	既設	人文社会学研究科人間福祉学専攻博士後期課程	5 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	2 (1)	
	計		5 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	— (—)	
	合計		19 (19)	9 (9)	3 (3)	0 (0)	31 (31)	0 (0)	— (—)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
			名	名	名					
	事 務 職 員		96 (96)	0 (0)	96 (96)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		5 (5)	0 (0)	5 (5)					
	そ の 他 の 職 員		3 (3)	0 (0)	3 (3)					
計		104 (104)	0 (0)	104 (104)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	0 m ²	100,141.08 m ²	0 m ²	100,141.08 m ²	四天王寺大学短期大学部（必要面積4,800m ² ）と共用				
	運 動 場 用 地	0 m ²	30,611.60 m ²	0 m ²	30,611.60 m ²					
	小 計	0 m ²	130,752.68 m ²	0 m ²	130,752.68 m ²					
	そ の 他	0 m ²	57,824.32 m ²	0 m ²	57,824.32 m ²					
	合 計	0 m ²	188,577.00 m ²	0 m ²	188,577.00 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
		4,206.37 m ² (4,206.37 m ²)	59,055.55 m ² (59,055.55 m ²)	1,044.34 m ² (1,044.34 m ²)	64,306.26 m ² (64,306.26 m ²)	四天王寺大学短期大学部（必要面積5,200m ² ）と共用				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	68 室	64 室	31室	1 室	0 室					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		看護学研究科看護学専攻		24 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体の共有分 図書 299,801冊 〔39,556冊〕 学術雑誌 4,324冊 〔384種〕		
	看護学研究科 看護学専攻	5,017 [340] (3,843 [300])	464 [425] (464 [425])	426 [409] (426 [409])	233 (158)	3,873 (3,840)	33 (33)			
	計	5,017 [340] (3,843 [300])	464 [425] (464 [425])	426 [409] (426 [409])	233 (158)	3,873 (3,840)	33 (33)			
図 書 館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		4,246.44 m ²	579 席		294,000 冊					
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
		7,530.06 m ²	テニスコート4面、武道場							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当り研究費等		370千円	370千円	370千円	—	—	—	
		共同研究費等		2,000千円	2,000千円	2,000千円	—	—	—	
		図書購入費	3,500千円	2,000千円	—	—	—	—	—	
	設備購入費	7,810千円	900千円	600千円	—	—	—	—		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	博士前期課程		
		800千円	600千円	—	—	—	—			
800千円		600千円	600千円	—	—	—	博士後期課程			
学生納付金以外の維持方法の概要			各年度の手数料収入、資産運用収入、雑収入等をこれに充当する。							

既設大学等の状況	大学の名称	四天王寺大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	人文社会学研究科 人間福祉学専攻	年	人	人	人		倍		大阪府羽曳野市学園前三丁目2番1号
	博士前期課程	2	10	—	20	修士(人間福祉学)	0.15	平成15年度	
	博士後期課程	3	3	—	9	博士(人間福祉学)	0.66	平成15年度	
	人文社会学部			3年次			1.13		
	日本学科	4	100	3	406	学士(人文社会学)	1.21	平成24年度	
	国際キャリア学科	4	90	5	370	学士(人文社会学)	1.19	平成24年度	
	社会学科	4	160	5	650	学士(人文社会学)	1.13	昭和61年度	
	人間福祉学科健康福祉専攻	4	70	15	310	学士(人文社会学)	0.97	平成18年度	
教育学部			3年次			1.06			
教育学科	4	240	17	994	学士(教育学)	1.06	平成20年度		
経営学部			3年次			1.13			
経営学科							平成20年度		
公共経営専攻	4	40	2	164	学士(経営学)	1.27	平成28年度		
企業経営専攻	4	120	3	486	学士(経営学)	1.09	平成28年度		
看護学部						1.05			
看護学科	4	80	0	320	学士(看護学)	1.05	平成31年度		
既設大学等の状況	大学の名称	四天王寺大学短期大学部							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	保育科	2	120	—	240	短期大学士(保育)	0.97	昭和42年度	大阪府羽曳野市学園前三丁目2番1号
	生活バージョン学科						1.02		
ライフデザイン専攻	2	100	—	200	短期大学士(ライフデザイン)	1.09	平成13年度		
ライフケア専攻	2	20	—	40	短期大学士(ライフケア)	0.72	平成13年度		
附属施設の概要	<p>名称：仏教文化研究所 所在地：大阪府羽曳野市学園前三丁目2番1号 設置年月：昭和56年4月 設置目的：仏教文化の資料収集、調査、研究</p> <p>名称：エクステンションセンター 所在地：大阪府羽曳野市学園前三丁目2番1号 設置年月：平成9年10月 設置目的：地域貢献</p>								

教育課程等の概要

(看護学研究科看護学専攻博士前期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通科目	看護理論	1前	2			○			1								
	看護研究Ⅰ（総論）	1前	2			○			2						オムニバス		
	看護研究Ⅱ（統計）	1後		2		○								兼1			
	看護倫理	1後	2			○								兼1			
	国際看護論	1後		2		○								兼1			
	哲学的人間論	1前		2		○								兼1			
	看護教育論	1前		2		○								兼1			
	看護管理論	1前		2		○								兼1	集中		
	コンサルテーション論	1前		2		○			1					兼1	オムニバス		
	看護政策論	1後		2		○								兼1			
	フィジカルアセスメント	1前		2		○			4					兼1	オムニバス		
	最新病態生理学	1前		2		○								兼1			
	臨床薬理学	1後		2		○								兼1			
小計（13科目）		—	6	20	0	—			6	0	0	0	0	兼10			
専門科目	基盤看護学分野	理論看護学特論	1前		2		○			2	2					オムニバス	
		理論看護学演習Ⅰ	1後		2			○		2	2					オムニバス・共同	
		理論看護学演習Ⅱ	2前		2				○		2	2					共同
		理論看護学特別研究	1～2通		8				○		2						
	精神看護学領域	精神障害者制度・法律特論	1前		2		○			1					兼1	共同	
		精神科アセスメントと精神科診断学	1前		2		○			1					兼2	共同	
		精神療法	1前		2		○			1					兼1	共同	
		精神科薬物療法	1後		2		○			1					兼2	共同	
		精神看護高度実践看護介入技法	1前		2		○			1							
		精神障害者ケースマネジメント支援論	1後		2		○			1					兼1	共同	
		リエゾン精神看護学	2前		2		○			1							
		認知症治療看護援助論	1後		2		○			1							
		役割開発実習	2前		2				○	1		1					共同
		精神科診断・治療実習	1後		2				○	1		1					共同
		精神看護直接ケア実習	1前		2				○	1		1					共同
		精神看護サブスペシャリティ実習	2前		2				○	1		1					共同
		相談・調整実習	2後		2				○	1		1					共同
精神看護学課題研究	2通		4				○	1									
精神看護学特別研究	1～2通		8				○	1									

教育課程等の概要

(看護学研究科看護学専攻博士前期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	生涯発達看護学分野	母性看護学特論	1前		2		○			1	1					オムニバス
		母性看護学演習Ⅰ	1後		2			○		1	1					オムニバス
		母性看護学演習Ⅱ	2前		2			○		1	1					共同
		母性看護学特別研究	1～2通		8			○		1	1					
	小児看護学領域	小児看護学特論	1前		2		○			1		1				オムニバス
		小児看護学演習Ⅰ	1後		2			○		1		1				オムニバス
		小児看護学演習Ⅱ	2前		2			○		1		1				共同
		小児看護学特別研究	1～2通		8			○		1		1				
	成人看護学領域	成人看護学特論	1前		2		○			3	1					オムニバス
		成人看護学演習Ⅰ	1後		2			○		3		1				オムニバス・共同
		成人看護学演習Ⅱ	2前		2			○		3	1	1				共同
		成人看護学特別研究	1～2通		8			○		3						
	老年看護学領域	老年看護学特論Ⅰ（老年看護学の基盤）	1前		2		○			1	1					オムニバス
		老年看護学特論Ⅱ（健康生活評価）	1前		2		○			1	1					共同
		老年看護学特論Ⅲ（病態・治療論）	1前		2		○			1					兼1	共同
		老年看護学特論Ⅳ（看護実践論）	1後		2		○			1	1					共同
		老年看護学特論Ⅴ（サポートシステム）	2前		2		○			1	1					共同
		老年看護学演習Ⅰ（慢性期における老年看護）	1後		2			○		1	1					共同
		老年看護学演習Ⅱ（ケア施設における老年看護）	1後		2			○		1	1					共同
		老年看護学実習Ⅰ（慢性期における高度実践老年看護）	2前		4				○	1	1					共同
老年看護学実習Ⅱ（ケア施設における高度実践老年看護）		2通		6				○	1	1					共同	
老年看護学課題研究		2通		4			○		1							
老年看護学特別研究	1～2通		8			○		1								
広域看護学分野	公衆衛生看護学領域	公衆衛生看護学特論	1前		2		○			2	1					オムニバス・共同（一部）
		公衆衛生看護学演習Ⅰ	1後		2			○		2	1					オムニバス・共同（一部）
		公衆衛生看護学演習Ⅱ	2前		2			○		2	1					共同
		公衆衛生看護学特別研究	1～2通		8			○		2	1					
	在宅看護学領域	在宅看護学特論	1前		2		○			2						オムニバス
		在宅看護学演習Ⅰ	1後		2			○		2						オムニバス
		在宅看護学演習Ⅱ	2前		2			○		2						共同
		在宅看護学特別研究	1～2通		8			○		2						

教育課程等の概要

(看護学研究科看護学専攻博士前期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 広域看護学分野 災害看護学領域	災害看護対象論	1前		2		○			1	1					共同
	災害看護ケア論	1前		2		○			1	1					共同
	災害と制度	1前		2		○			1	1					共同
	災害看護援助論	1後		2		○			1	1					共同
	防災・減災看護論演習	2前		2			○		1	1					共同
	要援護者看護援助論	2前		2		○			1	1					共同
	災害看護連携論	2前		2		○			1	1					共同
	災害看護学実習Ⅰ	1後		3				○	1	1					共同
	災害看護学実習Ⅱ	2前		2				○	1	1					共同
	災害看護学実習Ⅲ	2前		3				○	1	1					共同
	災害看護学実習Ⅳ	2後		2				○	1	1					共同
	災害看護学課題研究	2通		4			○		1						
	災害看護学特別研究	1～2通		8			○		1						
小計 (63科目)		—	0	194	0	—			14	7	3	0	0	兼5	
合計 (76科目)		—	6	214	0	—			14	7	3	0	0	兼14	
学位又は称号		修士 (看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (看護学関係)							
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
<p>《研究者コース》 共通科目から必修6単位を含み14単位以上、専門科目から9つの領域のうち一つの領域を主たる領域として当該領域の「特論」、「演習」、「特別研究」を含み14単位以上及び他の領域から2単位以上の合計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士論文の審査および最終試験に合格すること。</p> <p>《専門看護師コース (精神看護学・老年看護学・災害看護学)》 共通科目から14単位以上 (必修6単位を含み専門看護師コース必修科目のフィジカルアセスメント、最新病態生理学、臨床薬理学の6単位、及び看護教育論、看護管理論、コンサルテーション論、看護政策論から2単位以上選択) 修得するとともに、専門科目から専門看護師コースが設置されている3つの領域 (精神看護学・老年看護学・災害看護学) のうち一つの領域を主たる領域として当該領域の中から「課題研究」を含み28単位以上の合計42単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、特定の課題についての研究の成果の審査および最終試験に合格すること。</p>						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(看護学研究科看護学専攻博士後期課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通 科目	看護科学哲学	1前	2			○			1					兼1	オムニバス
	看護学研究方法論	1前	2			○			2						オムニバス
	高等社会統計学	1後		2		○								兼1	兼1
	看護教育学	1後		2		○								兼1	兼1
	小計（4科目）	—	4	4	0		—		2	0	0	0	0	兼3	兼3
専 門 科 目	基盤看護学分野 理論看護学特論	1通		2		○			2						オムニバス
	理論看護学演習	2通		2			○		2						共同
	精神看護学分野 精神看護学特論	1通		2		○			1						
	精神看護学演習	2通		2			○		1						
	生涯発達看護学分野 母子看護学特論	1通		2		○			2						オムニバス
	母子看護学演習	2通		2			○		2	1					オムニバス・共同(一部)
	成人看護学分野 成人看護学特論	1通		2		○			2						オムニバス
	成人看護学演習	2通		2			○		3						オムニバス・共同(一部)
	老年看護学分野 老年看護学特論	1通		2		○			1						
	老年看護学演習	2通		2			○		1						
	広域看護学分野 公衆衛生看護学特論	1通		2		○			2	1					オムニバス・共同(一部)
	公衆衛生看護学演習	2通		2			○		2	1					オムニバス・共同(一部)
	在宅看護学分野 在宅看護学特論	1通		2		○			3						オムニバス
	在宅看護学演習	2通		2			○		2						共同
	災害看護学分野 災害看護学特論	1通		2		○			1	1					オムニバス
	災害看護学演習	2通		2			○		1	1					共同
小計（16科目）	—	0	32	0		—		15	3	0	0	0			
特 別 研 究	看護学特別研究	1～3通	8				○		12	1					
	小計（1科目）	—	8	0	0		—		12	1	0	0	0		
合計（21科目）	—	12	36	0		—		15	3	0	0	0	兼3		
学位又は称号	博士（看護学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係（看護学関係）								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
共通科目6単位以上、専門科目の専攻する分野から4単位以上、特別研究8単位の合計18単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格すること。							1学年の学期区分				2学期				
							1学期の授業期間				15週				
							1時限の授業時間				90分				

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護理論	看護実践の基盤となる看護理論について、理論の意義、歴史の変遷、理論の種類、各理論の哲学的基盤と理論の特性を教授し、実践の質向上に向けた理論の活用の可能性を探究する。これらを通して、学生自らの看護実践をフィードバックし、自らの看護観を深化・拡大させる。また、これまでに経験してきた看護実践を題材として理論と実践を統合し、理論と実践の関係を再確認する。	
	看護研究Ⅰ（総論）	高度看護実践者あるいは研究者・教育者として、看護の質を向上させるための根拠を得る研究を遂行できる知識・技能を修得し、自らの研究を計画するための知識・技能を確かなものにする。 (オムニバス方式／全15回) (8 高橋（田代） 照子／10回) 看護学研究の特殊性・倫理性を理解し、研究プロセスの概観について探究する。量的研究方法・質的研究方法を理解し、クリティークする方法を修得する。また、質的研究方法の種類、面接や参加観察法などのデータ収集方法について修得する。 (12 松尾 ミヨ子／5回) 調査研究・実験研究の実際を教授するとともに、クリティークする方法を修得する。	オムニバス方式
	看護研究Ⅱ（統計）	研究を実施するために必要な統計学の主要概念を理解し、研究目的に応じた統計手法の選択、適切なデータベースの構築とデータマネジメントの方法、解析結果の解釈の方法を修得するとともに、研究論文を統計学的視点からクリティークする方法を修得する。	
	看護倫理	看護実践の中で看護職が日常的に直面している倫理的な問題・葛藤を明確化し、それらについて関係者間での倫理的調整を行うための基礎的知識を教授する。生命倫理学、医療倫理学および看護倫理学の歴史的発展、基本概念、倫理的意思決定における方法論について理解する。またそれらを踏まえて、臨床看護の実践の中で遭遇する倫理的問題を含む事象について分析し、調整していくための基礎的能力を養う。	
	国際看護論	グローバルな健康課題を明らかにし、日本と世界で看護の果たすべき役割と実践について具体的な実践事例を通して学び考察する。	
	哲学的人間論	生まれ、老い、病み、死にゆく生命、自然的・社会的関係の中でよりよく生きようとする生命の充実を問題にし、「病む人」の現象学的な現実に可能なかぎり寄りそいながら、そのような全一的生命の本質を人間学的な医療の観点から問い直します。	
	看護教育論	教育の本質を探究するとともに、看護ケアの質を高めるために必要な教育的機能・役割を教授する。特に、経験型実習教育とそれを支える理論を通して、教授方法、評価、教授＝学習過程を理解し、学習者が主体的に学ぶための教授方法等を探究する。	
	看護管理論	保健医療福祉機関における看護管理の基本となる諸理論及び管理プロセスに焦点をあてて、管理の原則と実践について学修し、効果的な看護管理のあり方を探究する。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻博士前期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	コンサルテーション論	<p>専門看護師の重要な機能であるコンサルテーションについて、コンサルテーションのタイプ、モデル、プロセス、評価について教授する。さらに組織・地域に対するコンサルテーションのあり方について実践例を用いて教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(3 宇佐美 しおり／11回) コンサルテーションの概要、タイプ、モデル、プロセス、なぜ専門看護師に必要なのか、コンサルテーションを通じての組織開発の方法について教授する。主にコンサルテーションの理論について教授し他の精神療法、カウンセリングとの違いを教授する。</p> <p>(38 山岡 由実／4回) コンサルテーションの実際の展開方法について具体的な事例・施設での展開を用いて教授する。コンサルテーションの理論を具体的な事象で展開する方法を教授する。</p>	オムニバス方式
	看護政策論	<p>保健医療福祉政策と看護提供システムに係る政策の動向を、社会システムや価値観、国民のヘルスケアニーズの変化と関連つけて理解するとともに、専門看護師に求められるケアシステムの改善を通して看護実践の質を向上させるための基本的能力の育成を図る。具体的には、政策とは何か、政策過程、政策提言活動の方法について学び、地域や臨床に存在する看護課題の解決に必要な看護政策の提言と政策実現のための活動について考えられるように授業を展開する。これらを通して、change agentとしての専門看護師の機能を理解する。</p>	
	フィジカルアセスメント	<p>複雑な健康問題を有する対象者の身体状態を包括的にアセスメントするための知識と技術を教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(12 松尾 ミヨ子／7回) 看護師が行うフィジカルアセスメントの意義について教授するとともに、呼吸器系・循環器系についてのフィジカルアセスメントの知識と技術について教授する。</p> <p>(25 仲谷 和記・4回) 消化器系・脳神経系についてのフィジカルアセスメント知識と技術について教授する。</p> <p>(2 赤井 由紀子／1回) 母性看護に必要なフィジカルアセスメント知識と技術について教授する。</p> <p>(7 鈴木 真知子／1回) 小児看護に必要なフィジカルアセスメント知識と技術について教授する。</p> <p>(9 西田 眞壽美／2回) 高齢者に必要なフィジカルアセスメント知識と技術について教授する。</p>	オムニバス方式
	最新病態生理学	<p>複雑な病態を示す体の生理的なメカニズムについて教授し、病気が出現するメカニズム、病気が回復・悪化するメカニズム、様々な治療と身体との相互作用、薬物治療と身体との相互作用、身体疾患や治療の精神状態へ及ぼす影響やメカニズムについて教授する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻博士前期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
	臨床薬理学	薬物動態と薬力学について教授し、救急応急状況、5大疾患、慢性疾患患者に必要な薬剤、モニタリング、薬剤選択の方法、副作用の判断の薬剤選択の変更について教授する。			
専 門 科 目	基 盤 看 護 学 分 野	理 論 看 護 学 領 域	理論看護学特論	<p>看護実践を導く看護理論や概念について理解を深めるとともに、患者・家族の体験世界を探求する。また、日常生活援助について実証的・理論的考察を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8 高橋 (田代) 照子/6回) 看護実践になぜ理論が必要なのかを本質的に考察し、実践を理論的に解明するための知識を教授する。また、現象学的アプローチによる看護実践・研究について探求する。</p> <p>(14 和田 恵美子/4回) 患者及び家族を理解するために、闘病記に関する理論的考察を深める。</p> <p>(15 池内 香織/2回) 末期がん患者の看取りに関する理論的考察を深める。</p> <p>(18 坂口 京子/3回) 睡眠援助について実証的・理論的に探求する。</p>	オムニバス方式
			理論看護学演習 I	<p>看護現象を理論的・実証的に解明するために、学生が関心のある課題について、国内・外の文献の精読・クリティークを通して、批判的思考能力を涵養する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(8 高橋 (田代) 照子・18 坂口 京子/20回) (共同) 看護実践の中で埋没しがちな自らの経験知に気づき、学生の関心を焦点化するために、文献購読を通して自らの課題を明確にする。</p> <p>(14 和田 恵美子・15 池内 香織/10回) (共同) 看護実践の中で、特に患者・家族の心理的側面に関する文献購読を通して、学生自らの課題を明確にする。</p>	オムニバス方式・共同
			理論看護学演習 II	<p>学生各自の関心課題に関する国内外の文献検討を行い、自らの関心課題を焦点化する。また、システムテックレビューを通して、自らの関心課題に関する先行研究の知見を総合的に理解し、研究の基盤を確かなものにする。</p>	共同
			理論看護学特別研究	<p>学生自らの研究課題に関して、看護学の学問的体系を理解し、研究デザインの追究・研究手法の検討の上、具体的な研究計画を立案し、最新の知見のもとにデータ収集・分析・考察し、論文としてまとめる能力を培う。</p> <p>(8 高橋 (田代) 照子) 学生の実践経験のなかで解明したい看護現象について、特論・演習を通して焦点化してきた学生の研究課題に即して、論文作成までの過程を指導する。</p> <p>(14 和田 恵美子) 学生の実践経験のなかで解明したい看護現象について、特論・演習を通して焦点化してきた学生の研究課題に即して、論文作成までの過程を指導する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻博士前期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
精神 看護学 領域	精神障害者制度・法律特論	精神保健福祉法の成立・改正過程、及び精神保健福祉法や障害者総合支援法、発達障害者支援法、心身喪失者等医療観察法、自殺対策基本法など精神障害者に関する法律について教授する。さらに、精神障害者が用いることのできる社会資源、社会復帰や地域生活に必要な資源、年金制度について教授する。	共同
	精神科アセスメントと精神科診断学	ICD-11ならびにDSM-5の精神状態のアセスメント(M.S.E)、力動的アセスメント、精神科診断の方法、診断のための検査及び構造化面接について教授する。また統合失調症、うつ病・大うつ病性障害、双極性障害、不安障害、外傷後ストレス障害、人格・発達障害、適応障害、物質依存、せん妄、認知症などアセスメントの方法、各精神疾患の診断基準、症状、必要とされる治療の概要について教授する。	共同
	精神療法	統合失調症、うつ病・大うつ病性障害、不安障害、外傷後ストレス障害、発達障害・人格障害を有する患者および身体疾患をもち適応障害を有する患者への支持的精神療法、力動的な精神療法(個人・家族・集団、特に精神分析的システムズ心理療法)、認知行動療法(個人・集団)、弁証法的行動療法の理論と介入技法について事例検討、ロールプレイを通して教授する。	共同
	精神科薬物療法	統合失調症、うつ病・大うつ病性障害、双極性障害、不安障害、外傷後ストレス障害、発達障害・人格障害、認知症、器質性精神障害の患者ならびに身体疾患を有して適応障害を有する患者に対する精神科薬物療法における処方、作用、副作用、効果の判定、使用方法について教授する。さらに精神科救急における薬物療法について教授する。	共同
	精神看護高度実践看護介入技法	統合失調症、うつ病・大うつ病性障害、双極性障害、不安障害、外傷後ストレス障害、適応障害、人格障害・発達障害をもつ人々の精神状態、自我・自己・人格の機能、精神の健康度、セルフケアの査定を行い地域での生活に必要なセルフケアへの卓越した介入技法を教授する。また患者の重症度に応じたセルフケアプログラム、PASセルフケアセラピイを事例、ロールプレイを用いて教授する。	
	精神障害者ケースマネジメント支援論	精神障害者ならびに重複診断を有した長期入院患者への、地域での生活促進のための、集中包括型ケースマネジメント(Community Based Case Management, CBCM) およびアサーティブ・コミュニティ・トリートメント(Assertive Community Treatment, ACT)の概要を教授し、精神障害者の地域生活支援のための支援体制と支援方法について教授する。さらに精神障害者ケースマネジメントにおける高度看護実践家の役割、機能について教授する。	共同
	リエゾン精神看護学	身体疾患で適応障害、中等度から軽度の抑うつ・不安状態を呈する患者の精神状態・セルフケアの査定に関する知識を教授する。さらに状態に応じたセルフケアプログラム、日常生活の再構築、危機介入、ストレス・マネジメント、リラクゼーション、カウンセリング、精神療法(PAS心理療法)、認知行動療法、自殺予防介入技法を教授する。さらにリエゾン精神看護専門看護師をはじめとするAPNの役割・機能および施設内・地域における役割、役割開発の方法について教授する。上記について事例検討およびロールプレイを通して技法の修得を促す。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻博士前期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	認知症治療看護援助論	高次機能障害、認知症の病理、診断と検査（画像診断、バイオマーカー、認知機能検査）、薬物療法と治療およびケア、家族への支援と地域における支援体制、研究の動向について教授し、認知症に関する治療と看護ケア、治療とケアにおける看護職・高度実践看護師の役割、地域包括ケアシステムの促進について教授する。	
	役割開発実習	高度実践看護師としての精神看護専門看護師の組織の中での役割開発の方法、看護部、診療部、地域連携部との連携の意義と方法について教授する。また精神看護専門看護師が病棟および病院でケア困難な患者への直接ケア、治療チーム・看護スタッフへのコンサルテーション、退院調整、倫理調整、教育、研究の機能をどのように果たしているかについて事例を通じて教授する。さらに地域における役割開発の方法について教授する。	共同
	精神科診断・治療実習	身体疾患を有し適応障害のある患者、軽度から中等度のうつ・不安状態、せん妄状態の患者、統合失調症・気分障害・不安障害・器質性精神障害・物質乱用障害等の患者の、精神科診断、精神科治療の組み立てを精神科医とともに実施する。また、精神科薬物療法が患者の診断・状態像に応じてどのように実施されるのかの理解を深める。	共同
	精神看護直接ケア実習	統合失調症、うつ病・大うつ病性障害、双極性障害、不安障害、外傷後ストレス障害、人格障害、発達障害、器質性精神障害の患者ならびにリエゾン領域における適応障害患者を2事例受けもち、信頼関係を構築しながら患者の精神状態、精神症状、自我・自己・人格機能、セルフケアの査定を行い、患者の地域生活に必要なとされるセルフケアプログラム、看護支援について理解し、実施できるよう知識と技術の修得を促進する。	共同
	精神看護サブスペシャリティ実習	リエゾン精神看護領域もしくは精神科看護領域において、サブスペシャリティに応じ、同意の得られた特定の患者2名を受け持ち、信頼関係を構築しながら患者の精神状態、精神症状、自我・自己・人格の機能、セルフケア、発達レベルを査定し、退院後の生活に必要なとされるセルフケアについて看護介入を理解し実践して評価する。必要に応じて家族、治療チーム、地域ケアチームへの介入を行う。	共同
	相談・調整実習	長期入院予備軍・入退院の繰り返しや自傷行為・行動化を繰り返すケア困難患者の退院促進、治療チーム・病棟スタッフ・精神科ケースマネジメントチーム・地域ケアチームへのコンサルテーション、退院および倫理的問題の共有・調整方法について討議、知識の教授を行い、実施できるための介入技法を教授する。	共同
	精神看護学課題研究	学生が高度実践能力向上に向けて実践し、臨地実習を通して得た知識・情報を整理・分析・考察した成果を課題研究論文としてまとめる過程を指導する。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻博士前期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	精神看護学特別研究	<p>学生自らの研究課題に関して、看護学の学問的体系を理解し、研究デザインの追究・研究手法の検討の上、具体的な研究計画を立案し、最新の知見のもとにデータ収集・分析・考察し、論文としてまとめる能力を培う。</p> <p>(3 宇佐美 しおり)</p> <p>気分障害、統合失調症、不安障害、人格障害、発達障害、外傷後ストレス障害、認知症など精神疾患ならびに身体疾患で適応障害を有する患者のセルフケアの実態、セルフケアへの看護介入技法、その評価に関する研究を教授する。さらに精神障害者の地域生活促進のためのケア技法、治療チームや地域包括ケアチームへの介入に関する研究を推進する。文献検討を行い研究の目的を明確にし質的研究や量的研究を用いて結果を分析し、考察を行い、修士論文として作成する。全研究の過程を指導する。</p>	
生涯 発達 看護学 分野	母性看護学領域	母性看護学特論	オムニバス方式
		<p>女性の健康課題、周産期にある女性及び家族の健康課題を、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点でアセスメントし、根拠に基づいた効果的な援助方法を探究する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(2 赤井 由紀子／8回)</p> <p>各ライフステージにある女性の健康課題を探究し、専門的な看護援助、女性の健康増進と健康課題及び疑問を解決するために、Evidence-based Medicine/Nursing (EBM/EBN) に基づいた知見を教授する。</p> <p>(20 宮本 雅子／7回)</p> <p>周産期にある女性およびその家族の健康問題を探究し、効果的な看護について教授する。</p>	
	母性看護学演習 I	<p>女性の各ライフステージにおける健康の維持増進に向けた諸課題・問題に関する研究の動向を踏まえ、国内・外の文献の精読・クリティークを通して、批判的思考能力を涵養する。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(2 赤井 由紀子／15回)</p> <p>助産学、ウィメンズヘルスの研究動向を概説し、学生の関心あるテーマに即した文献講読を通して、学生自らの関心を焦点化する。</p> <p>(20 宮本 雅子／15回)</p> <p>母性看護学の研究動向を概説し、学生の関心あるテーマに即した文献講読を通して、学生自らの関心を焦点化する。</p>	オムニバス方式
	母性看護学演習 II	<p>周産期を含む女性の健康保持・増進及び疾病予防、健康回復にむけた実践における課題、専門職のケアの質の向上に向けた教育に関する課題など、文献検索やクリティーク、プレゼンテーションや討議を通して疑問を明確にする。さらにフィールドワーク実習の実践活動を行い、研究の基盤を確かなものにする。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻博士前期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	母性看護学特別研究	<p>学生自らの研究課題に関して、看護学の学問的体系を理解し、研究デザインの追究・研究手法の検討の上、具体的な研究計画を立案し、最新の知見のもとにデータ収集・分析・考察し、論文としてまとめる能力を培う。</p> <p>(2 赤井 由紀子) リプロダクティブ・ヘルス/ライツを基盤に、周産期を含む女性の健康保持・増進及び疾病予防、健康回復に向けたケアを研究課題としている。さらに月経と睡眠をキーワードに準実験研究を行っている。研究課題に関して、文献検討を含めた修士論文としてまとめる研究の全過程を指導する。</p> <p>(20 宮本 雅子) 周産期における女性とその家族への看護ケア、助産技術、理論モデルに基づく健康教育、および思春期・更年期女性への健康維持・増進に向けての看護ケアや健康教育に関する研究課題に関して、文献検討を含めた修士論文としてまとめる研究の全過程を指導する。</p>	
小児 看護学 領域	小児看護学特論	<p>子ども及びその家族を取り巻く健康生活の特性や身体的・心理的・社会的問題や課題を看護学の視点を通して探求する</p> <p>(オムニバス方式・全15回)</p> <p>(7 鈴木 眞知子/10回) 疾病や障害を持つ子どもと親に対する子育て支援や在宅支援について教授し、看護職の役割や支援システムを探求する。</p> <p>(23 西元 康世/5回) 疾病や障害を持つ子どもとその家族への家族支援について教授し、家族機能や家族支援のあり方を探求する。</p>	オムニバス方式
	小児看護学演習 I	<p>子ども及び家族への質の高いケア提供を目指して、小児及び家族看護に関する研究の動向を踏まえ、国内・外の文献の精読・クリティークを通して、批判的思考能力を涵養する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(7 鈴木 眞知子/20回) 小児看護学の研究動向を概説し、学生の関心あるテーマに即した文献講読を通して、学生自らの関心を焦点化する。</p> <p>(23 西元 康世/10回) 小児及び家族看護に関する研究動向を概説し、学生の関心あるテーマに即した文献講読を通して、学生自らの関心を焦点化する。</p>	オムニバス方式
	小児看護学演習 II	<p>学生各自の関心課題に関する国内外の文献検討を行い、自らの関心課題を焦点化する。また、システムテックレビューを通して、自らの関心課題に関する先行研究の知見を総合的に理解し、研究の基盤を確かなものにする。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻博士前期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	小児看護学特別研究	<p>学生自らの研究課題に関して、看護学の学問的体系を理解し、研究デザインの追究・研究手法の検討の上、具体的な研究計画を立案し、最新の知見のもとにデータ収集・分析・考察し、論文としてまとめる能力を培う。</p> <p>(7 鈴木 眞知子) 小児看護学、家族看護学について、指導教員のもとで、自らの研究課題を設定し、研究計画書の作成をし、それにもとづく研究の実施並びにその結果を修士論文としてまとめる全過程を指導する。</p> <p>(23 西元 康世) 健康問題をもつ子どもとその家族への看護実践・家族支援の探求、健康な子どもとその家族への予防的な看護実践・家族支援の探求など、子どもとその家族に関する小児看護学・家族看護学の研究課題を設定する。文献検討を十分に重ねた上で、研究計画の立案、倫理的配慮の検討、倫理審査の受審、調査、分析を行い、その結果を修士論文としてまとめる全過程を指導する。</p>	
成人 看護学 領域	成人看護学特論	<p>成人期にある人々の健康レベルに対応した質の高い看護を提供するために、根拠に基づいた臨床判断・意思決定・看護介入及びその評価を可能にする理論的知識と技術を教授する。また、人々の健康を維持・増進するための看護援助のある方を探求する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(12 松尾 ミヨ子／6回) 成人期にある人々の慢性疾患を持つ患者とその家族への支援について教授する。また特に、呼吸器疾患持つ人々への症状に応じた継続的支援の実際とそのあり方を探求する。</p> <p>(11 藤原 尚子／3回) 消化器がんを持つ人々への症状各期に応じた看護の知識・技術について教授し、その受診行動について探求する。</p> <p>(10 福田 和明／4回) 急性期にある患者とその家族への支援及びクリティカルケアについて教授するとともに、患者家族のニーズについて探求する。</p> <p>(21 吉川 有葵／2回) 急性期看護実践における看護師の役割について探求する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻博士前期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	成人看護学演習 I	<p>成人期にある人々への高度実践間に関する研究の動向を踏まえ、国内・外の文献の精読・クリティークを通して、批判的思考能力を涵養する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(12 松尾 ミヨ子・11 藤原 尚子/20回) (共同) 慢性疾患を持つ人とその家族への援助に関する研究動向を概説し、学生の関心あるテーマに即した文献講読を通して、学生自らの関心を焦点化する。</p> <p>(10 福田 和明・24 松田 常美/10回) (共同) 急性期にある患者とその家族への支援及びクリティカルケアに関する研究動向を概説し、学生の関心あるテーマに即した文献講読を通して、学生自らの関心を焦点化する。</p>	オムニバス方式・共同
	成人看護学演習 II	<p>学生各自の関心課題に関する国内外の文献検討を行い、自らの関心課題を焦点化する。また、システムテックレビューを通して、自らの関心課題に関する先行研究の知見を総合的に理解し、研究の基盤を確かなものにする。</p>	共同
	成人看護学特別研究	<p>学生自らの研究課題に関して、看護学の学問的体系を理解し、研究デザインの追究・研究手法の検討の上、具体的な研究計画を立案し、最新の知見のもとにデータ収集・分析・考察し、論文としてまとめる能力を培う。</p> <p>(12 松尾ミヨ子) 慢性疾患を持つ人とその家族の看護の知識基盤と実践的援助に資する研究計画に基づいて、最新の知見を活かしたデータ収集・分析・考察を行い、論文としてまとめる全過程を指導する。</p> <p>(10 福田 和明) 急性期・周術期・クリティカルケアを必要とする患者・家族の看護、クリティカルケア看護に従事する看護職者等の研究課題に関して、文献検索に基づき研究計画の立案、倫理審査の受審を経て、計画に沿った研究の実施とその結果を修士論文としてまとめる全研究過程を指導する。</p> <p>(11 藤原 尚子) 成人看護領域においてがん検診の動向や受診行動に関する意識や行動変容に向けた予防教育や検診フォローシステムの開発と臨床に適応できる内容について、文献検討を経て研究計画書を作成、計画に基づき事例研究や調査等を実施し、その結果を修士論文としてまとめる全研究過程を指導する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻博士前期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
老年 看護学 領域	老年看護学特論Ⅰ (老年看護学の基盤)	老年看護を実践するための基盤となる諸理論、倫理及び専門看護師の役割・機能を理解する。 (オムニバス方式／全15回) (9 西田 眞壽美／10回) エイジングによる身体的・精神的・社会的変化や高齢者が持つ複雑な健康問題について教授し、看護介入とその評価に関する知識・技術を学修する。 (19 得居 みのり／5回) 老人看護専門看護師の役割と機能について、実践例に基づいて教授する。	オムニバス方式
	老年看護学特論Ⅱ (健康生活評価)	高齢者の健康生活に関する基本的な概念や理論を学び、高齢者の身体的・精神的・社会的側面の包括的アセスメントの方法を修得する。	共同
	老年看護学特論Ⅲ (病態・治療論)	老年期に発生頻度の高い疾患や症候群を理解し、高度看護実践を提供するために必要な病態生理・検査・治療(薬物療法を含む)を学修する。	共同
	老年看護学特論Ⅳ (看護実践論)	老年看護学及び病態治療学で学んだ知識・技術を活用した高度の臨床判断と看護実践を適切に行うための方法を修得する。	共同
	老年看護学特論Ⅴ (サポートシステム)	グローバルな視点から高齢者に関する保健医療福祉制度、政策の変遷と現状、高齢者のサポートシステムについて学び、協働・連携という高度な看護実践ができる能力を養う。国内外の高齢者に関する保健医療福祉制度や政策、日本における介護保険制度とこれまでの改正点について自己学習、発表と討議を行い、日本における高齢者サポートシステムの課題について考える。	共同
	老年看護学演習Ⅰ (慢性期における老年看護)	高齢者が陥りやすい複雑で多様な疾病とその症状、健康障害について、専門的なアセスメントと健康レベルに応じた看護援助について学ぶ。また、日常生活を送る上で起こり得る問題を予測する方法について理解を深める。	共同
	老年看護学演習Ⅱ (ケア施設における老年看護)	多様なケア環境で生活する高齢者と家族に対する老年看護の実践力を高めるために、地域包括的な視点からケア施設における老年看護の課題を探索する。	共同
	老年看護学実習Ⅰ (慢性期における高度実践老年看護)	医療機関に入院中の慢性期(急性増悪期を含む)～回復期の高齢者を担当し、高齢者が陥りやすい、複雑で多様な疾病とその症状、健康障害について、専門的なアセスメントと健康レベルに応じた看護実践を提供する力を養う。	共同
	老年看護学実習Ⅱ (ケア施設における高度実践老年看護)	地域包括ケアの要として多職種との協働・連携を図り、生活モデルの視点から、高齢者ケア施設における高度の看護実践ができる能力を養う。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻博士前期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	老年看護学課題研究	学生が高度実践能力向上に向けて実践し、臨地実習を通して得た知識・情報を整理・分析・考察した成果を課題研究論文としてまとめる過程を指導する。	
	老年看護学特別研究	<p>学生自らの研究課題に関して、看護学の学問的体系を理解し、研究デザインの追究・研究手法の検討の上、具体的な研究計画を立案し、最新の知見のもとにデータ収集・分析・考察し、論文としてまとめる能力を培う。</p> <p>(9 西田 眞壽美) 老年期の人々とその家族の健康と生活を支えるケアモデルの探索等の研究課題に関して、文献検索に基づき研究計画の立案、データ収集と分析、論文作成までの一連の過程において、研究の基本的な遂行能力を修得できるよう指導する。また、研究における倫理基準に則した方法を教授する。</p>	
広域看護学分野	公衆衛生看護学領域	<p>公衆衛生看護学の変遷および関連する理論、保健師の役割と機能、個人、家族、集団、地域を対象とした保健活動や健康課題について教授する。また、学校保健活動について教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(13 山田 和子・17 小出 恵子／10回) 公衆衛生看護学の変遷および関連する理論、保健師の役割と機能、個人、家族、集団、地域を対象とした保健活動や健康課題について教授する。さらに、個人要因だけでなく、生活や環境を含めた社会的要因について着目し、健康の保持増進回復を目指した個人、家族、集団、地域を対象にした健康づくりについて探求する。</p> <p>(5 岡本 啓子／5回) 学校の場における保健看護活動に関する近年の研究動向について教授する。子どもの成長・発達の課題をヘルスプロモーションスクールの視点で捉え、養護教諭の実践を基に子どものニーズに対応する能力やチームケアに取り組むためのコーディネーション能力などについて探求する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
		<p>公衆衛生看護の研究課題に応じて、個人、家族、集団、地域を対象とした自らの実践を振り返り、理論および研究知見、質的・量的データ分析等の方法を用いて評価することによって、自身の実践の成果と課題を考察する。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(13 山田 和子・17 小出 恵子／22回) (共同) 公衆衛生看護の研究課題に応じて個人、家族、集団、地域を対象とした自らの実践を振り返り、理論および研究知見、質的・量的データ分析等の方法を用いて評価することによって、学生自身の実践の成果と課題を考察し、保健師の専門性と研究テーマを探求する。</p> <p>(5 岡本啓子／8回) 学校における保健看護活動、養護教諭に関する研究の動向を踏まえ、子どもの成長発達を主軸にした保健看護活動および養護教諭の実践を理解し、学生自らの関心を焦点化して探求する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
		<p>学生各自の関心課題に関する国内外の文献検討とクリティックを行うことによって、自身の研究テーマを焦点化する。研究デザインと研究方法を検討し、研究計画書と倫理審査に関する書類を作成する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻博士前期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	公衆衛生看護学特別研究	<p>学生自らの研究課題に関して、看護学の学問的体系を理解し、研究デザインの追究・研究手法の検討の上、具体的な研究計画を立案し、最新の知見のもとにデータ収集・分析・考察し、論文としてまとめる能力を培う。</p> <p>(13 山田 和子) 公衆衛生看護学研究の意義、特徴をふまえ、テーマに関して文献収集、文献検討に基づき、研究計画の立案、倫理審査の受審、計画に基づき研究活動を実施し、前期課程の特別研究としてまとめる。まとめの全過程において指導する。</p> <p>(5 岡本 啓子) 学校生活における子どもの安心安全の確保をめざしたケアの探索、疾病・障害のある子どもの健康課題や支援システムの探索等の研究課題に関して、文献検索に基づき研究計画の立案、また倫理審査の受審を経て、計画に沿って事例研究や調査等を実施し、その結果を修士論文としてまとめる全研究過程を指導する。</p> <p>(17 小出 恵子) 公衆衛生看護学研究の意義、特徴をふまえ、テーマに関して文献収集、文献検討に基づき、研究計画の立案、倫理審査の受審、計画に基づき研究活動を実施し、前期課程の特別研究としてまとめる。まとめの全過程において指導する。</p>	
在宅看護学領域	在宅看護学特論	<p>在宅で生活する人々の多様な健康状態に対応した看護活動や看護職の役割・機能について教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(6 小林 裕美／10回) 在宅看護・在宅ケアにおいて、活用できる概念、諸理論などについて検討し、在宅看護における専門性の発展のための方法を探究する。</p> <p>(4 大橋 純子／5回) 在宅看護における健康課題に対して、効果的な予防プログラムや介入方法を探究するため、在宅療養者とその家族看護に関する理論や概念について理解し、実践と教育・研究への適用を考察する。また、地域ケアシステムにおける在宅療養者を支える看護を探究する。</p>	オムニバス方式
	在宅看護学演習 I	<p>在宅で生活する人々への看護活動に関する研究の動向を踏まえ、国内・外の文献の精読・クリティークを通して、批判的思考能力を涵養する。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(6 小林 裕美／20回) 在宅看護、在宅ケアに関する研究を広く文献購読し、論文クリティークを通して批判的思考を身に付けるとともに、学生の研究の方向性を探究する。</p> <p>(4 大橋 純子／10回) 乳幼児から高齢者を対象に、在宅看護の健康課題に対する支援プログラムや地域ケアシステムおよび主観的QOLの評価に関する文献レビューや特論で学んだ理論や概念を基盤に、学生自らの関心を焦点化する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻博士前期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	在宅看護学演習Ⅱ	学生各自の関心課題に関する国内外の文献検討を行い、自らの関心課題を焦点化する。また、システムテックレビューを通して、自らの関心課題に関する先行研究の知見を総合的に理解し、研究の基盤を確かなものにする。	共同
	在宅看護学特別研究	<p>学生自らの研究課題に関して、看護学の学問的体系を理解し、研究デザインの追究・研究手法の検討の上、具体的な研究計画を立案し、最新の知見のもとにデータ収集・分析・考察し、論文としてまとめる能力を培う。</p> <p>(6 小林 裕美) 在宅で療養する人に対する看護ケア方法の開発や、在宅におけるエンドオブライフケア、在宅における家族支援、訪問看護の質的評価の探究等の研究課題に関して、文献検索に基づき研究計画の立案、また倫理審査の受審を経て、計画に沿って事例研究や調査等を実施し、その結果を修士論文としてまとめる全研究過程を指導する。</p> <p>(4 大橋 純子) 在宅看護の支援対象である乳幼児から高齢者までの個人やその家族の持つ課題やケアシステム等、在宅看護の質の向上に向けた研究課題に関して、文献検索に基づき研究計画の立案、また倫理審査の受審を経て、計画に沿って事例研究や調査等を実施し、その結果を修士論文としてまとめる全研究過程を指導する。</p>	
災害 看護学 領域	災害看護対象論	災害ならびに災害サイクルの特徴を概観し、最近の世界・日本における災害発生の状況を理解する。また災害が地域社会や人々の生活と健康に及ぼす影響を理解し、加えて脆弱性を有する対象者や災害時援助者における健康問題/課題を概観する。	共同
	災害看護ケア論	災害サイクルと被災者特性、活動現場の特性を踏まえて、倫理的判断を含む看護援助、ならびに他職種等との連携支援システム構築について災害看護活動の対象となる被災者を理解し、援助方法を学ぶ。災害時に起こりやすい倫理的問題について理解することや危機管理に関する基本理論について学ぶ。	共同
	災害と制度	日本における災害と法の歴史を学び、災害看護活動を展開するうえで必要な法律や制度について理解するとともに、災害対策の現状と課題を検討する。	共同
	災害看護援助論	災害発生後の時間軸でとらえた各期において、被災者/サバイバーが抱える生活上の課題や看護援助の方法を学ぶ。災害急性期における救命救急看護と避難生活をおくる被災者/サバイバーに対する看護援助、中・長期における被災者/サバイバーが抱える健康や生活上の諸問題、被災地・地域・集団・個人の状態・状況を査定し、必要な援助について理解する。	共同
	防災・減災看護論演習	個人・家族・地域・医療機関等における災害に対する備えや減災に向けた教育・訓練に必要な知識・技術を学ぶ。さらに災害に強い地域・組織・個人作りに向けて、減災・防災教育/訓練の企画・実施・評価を通して、必要な知識・技術を理解する。	共同
	要援助者看護援助論	対応期から災害後、中・長期的な時期において、救命救急方法、また高齢者、母子、慢性疾患患者、心身障がい者等の特性を踏まえた援助方法を習得する。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻博士前期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	災害看護連携論	災害サイクル各期の活動現場における行政・住民やボランティア・他職種などとの連携・協働の重要性を理解し、専門看護師として果たす役割について考察する。	共同
	災害看護学実習Ⅰ	災害発生時には被災地へ赴き、災害医療看護活動の視点から情報収集、アセスメントを行い、支援計画の実施、評価の一連の過程を実施する能力を養う。病院における災害急性期から中長期、静穏期における災害医療看護活動の実際を学び、専門看護師として行政・住民組織・他職種・ボランティア等との連携・協働の重要性を理解し、リーダーシップを発揮することができる能力を養う。本実習においては、専門看護師の能力のうち「高度実践」、「連絡調整」、「倫理調整」の修得を目指す。	共同
	災害看護学実習Ⅱ	災害サイクル中長期にある被災地へ赴き、被災者の生活再建に関わる支援活動の実際を学び専門看護師の能力のうち「高度実践」、「連絡調整」、「倫理調整」の能力強化を目指す。	共同
	災害看護学実習Ⅲ	病院における災害急性期から中長期、静穏期における災害医療活動の実際を学び、専門看護師の能力のうち「調整」、「教育」の能力強化を目指す。	共同
	災害看護学実習Ⅳ	災害時の管理体制やシステム、課題を抽出し、専門看護師としての役割を検討する。本実習においては、専門看護師の能力のうち、「調整」、「倫理」、「相談」の能力強化を目指す。	共同
	災害看護学課題研究	学生が高度実践能力向上に向けて実践し、臨地実習を通して得た知識・情報を整理・分析・考察した成果を課題研究論文としてまとめる過程を指導する。	
	災害看護学特別研究	<p>学生自らの研究課題に関して、看護学の学問的体系を理解し、研究デザインの追究・研究手法の検討の上、具体的な研究計画を立案し、最新の知見のもとにデータ収集・分析・考察し、論文としてまとめる能力を培う。</p> <p>(1 山本 あい子) 災害に対する人々の備え行動促進に向けた看護ケアの探索や、災害後の人々の健康維持・向上に向けたケアモデルの探索等の研究課題に関して、文献検索に基づき研究計画の立案、また倫理審査の受審を経て、計画に沿って事例研究や調査等を実施し、その結果を修士論文としてまとめる全研究過程を指導する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護科学哲学	<p>哲学史・学問史における看護学の思想的変遷を探究し、看護学の学問的基盤を究明するとともに、看護学の展望を教授・探究する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(8 高橋 (田代) 照子／8回) 看護実践の歴史的基盤として発展してきた看護の概念・理論を、哲学史・学問史との関係から究明し、看護学の学問性を教授・探究する。</p> <p>(19 松葉 祥一／7回) 学問の阻としてのアリストテレスからデカルト、カントを経てフッサール、メルローポンティに至る哲学史・学問史を教授するとともに、科学哲学的思考を涵養する。</p>	オムニバス方式
	看護学研究方法論	<p>看護学研究における近年の新たな研究方法を教授・探究する。また、修士論文等のこれまでにを行った研究方法・研究プロセスについて学生相互にクリティークして評価し合い、研究方法についての理解を深めるとともに、各自の研究テーマに関連した国内外の論文の精読を通して、博士論文作成に必要な学術性の高い研究能力を培う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(8 高橋 照子／7回) 国内外の原著論文の精読を通して、研究デザインと研究目的、研究方法とデータ分析方法など批判的吟味を行い、研究能力を培う。</p> <p>(12 松尾 ミヨ子／8回) 新たな看護研究の動向を探究し、トランスレーショナル・リサーチ (Translational Research)、混合研究方法 (Mixed Methods Research) : (トライアンギュレーション、埋め込みデザイン、説明的デザイン、探索的デザイン)、メタ・アナリシス (Meta-analysis)、メタ・シンシス (Meta-synthesis) などを駆使する能力を培う。また、看護現象を量的または質的に把握して分析する手法を中心に論文の精読を通して、研究デザインと研究方法、研究目的とデータ分析など統計的解釈について教授・探究する。</p>	オムニバス方式
	高等社会統計学	<p>看護研究に必要な多変量解析についての理解を深めるために、統計学の基礎から応用までを学修し、博士論文作成に適応できる能力を涵養する。</p>	
	看護教育学	<p>看護学分野における教育の本質・目的・方法を吟味するとともに、看護学教育制度の変遷とその問題点を究明し、看護学教育のあり方を教授・探求する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	基 盤 看 護 学 分 野	<p>国内外の文献を検討材料とし、各自の研究課題における概念枠組みを理論的に探究するとともに、これまで提唱されている諸看護理論と各自の研究課題の関連性を究明する。また、各自の研究課題が、看護学にとって理論的・実証的にいかなる意味をもつのかを教授・探究する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(8 高橋 (田代) 照子／10回) 各理論家の原著文献の精読を通して、看護現象を理論的に探究するとともに、各自の研究課題における概念枠組みを構築する。また、各自の研究課題の看護学における意義を理論的に教授・探究する。</p> <p>(14 和田 恵美子／5回) 闘病記が意味する理論構造を解明するとともに、闘病記に類する海外文献を探求・教授する。</p>	オムニバス方式
	理 論 看 護 学 演 習	看護現象の理論的解明を目指して、研究課題に関するシステマティック・レビューを通して、看護実践と理論の関係を探究し、研究課題へと発展させる手法を修得する。	共同
	精 神 看 護 学 特 論	国内外の文献を検討材料とし、精神看護分野の高度看護実践における看護職の役割と機能、精神看護に関わる諸現象について教授・探究する。	
	精 神 看 護 学 演 習	国内外の文献を検討材料とし、各自の関心領域・研究テーマの専門性を深めるとともに、博士論文作成における課題解決に必要なとされる理論と方法について学術的に探究する手法を修得する。	
生 涯 発 達 看 護 学 分 野	母 子 看 護 学 特 論	<p>国内外の文献を検討材料とし、母子看護分野の高度看護実践における看護職の役割と機能、母子看護に関わる諸現象について教授・探究する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(7 鈴木 眞知子／8回) 国内外の文献を検討材料とし、思春期、子どものストレス、家族支援等に関する小児看護の諸現象を探究し、各自の研究課題に即して実証的に教授・探究する。</p> <p>(2 赤井 由紀子／7回) 国内外の文献を検討材料とし、ウィメンズヘルス及び母性看護・助産学に関わる諸現象を探究し、各自の研究課題に即して実証的に教授・探究する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	母子看護学演習	<p>国内外の文献を検討材料とし、各自の関心領域・研究テーマの専門性を深めるとともに、博士論文作成における課題解決に必要とされる理論と方法について学術的に探究する手法を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(7 鈴木 眞知子／15回) 母子看護学の観点から国内外の文献検討を通し、小児看護研究の動向を探究するとともに、研究課題へと発展させる手法を修得する。</p> <p>(2 赤井 由紀子・17 宮本 雅子／15回) (共同) 母子看護学の観点から国内外の文献検討を通し、ウィメンズヘルス及び母性看護研究の動向を探究するとともに、研究課題へと発展させる手法を修得する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	成人看護学特論	<p>国内外の文献を検討材料とし、療養支援に関わる高度看護実践における看護職の役割と機能について、また、慢性期・急性期看護における諸現象について教授・探究する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(12 松尾 ミヨ子／10回) 療養支援に関わる高度看護実践における看護職の役割と機能について教授し、国内外の文献を検討材料として、慢性期看護の諸現象を探究し、各自の研究課題に即して実証的に教授・探究する。</p> <p>(10 福田 和明／5回) 国内外の文献を検討材料とし、急性期・周術期・クリティカルケアに関わる諸現象を探究し、各自の研究課題に即して実証的に教授・探究する。</p>	オムニバス方式
	成人看護学演習	<p>国内外の文献を検討材料とし、各自の関心領域・研究テーマの専門性を深めるとともに、博士論文作成における課題解決に必要とされる理論と方法について学術的に探究する手法を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(12 松尾 ミヨ子・11 藤原 尚子／20回) (共同) 慢性期看護の観点から国内外の文献検討を通し、慢性期看護研究の動向を探究するとともに、研究課題へと発展させる手法を修得する。</p> <p>(10 福田 和明／10回) 急性期・周術期・クリティカルケアの観点から国内外の文献を検討し、研究の動向を探究するとともに、研究課題へと発展させる手法を修得する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	老年看護学特論	<p>国内外の文献を検討材料とし、老年看護に関わる高度看護実践における看護職の役割と機能について、また、老年看護における諸現象について教授・探究する。</p>	
	老年看護学演習	<p>国内外の文献を検討材料とし、各自の関心領域・研究テーマの専門性を深めるとともに、博士論文作成における課題解決に必要とされる理論と方法について学術的に探究する手法を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
広 域 看 護 学 分 野	公衆衛生看護学特論	<p>公衆衛生看護における個人・集団における支援のあり方、方法論の開発、研究方法について探求する。さらに、最新のエビデンスを多角的に分析する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(13 山田 和子・16 小出 恵子／10回) (共同) 公衆衛生看護学における個人・集団への支援をとおり、多様な健康課題に対応する働きかけの方法論の開発を行い、必要な支援方法を探究する。これらの過程をとおり公衆衛生看護学の考え方、視点を学ぶ。さらに国内外の文献から最新のエビデンスを分析し、学術的に公衆衛生看護学、学生自身の研究課題について探求する。</p> <p>(5 岡本 啓子／5回) 国内外の文献を検討材料とし、学校保健や学校看護に関わる諸現象を探究する。特に地域の学校における心身障害のある子どもの教育権や発達権の保障をめざし、子どもと家族を支援する専門性に基づいた多職種による包括的支援システム、コーディネーション実践などについて教授するとともに、各自の研究課題に即して実証的に教授・探求する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	公衆衛生看護学演習	<p>公衆衛生学分野における研究テーマの専門性を深めるとともに、博士論文作成における課題解決に必要とされる理論と方法について学術的に探究する手法を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(13 山田 和子・16 小出 恵子／25回) (共同) 公衆衛生看護の観点から国内外の文献検討を通し、地域看護研究の動向を探究するとともに、研究課題へと発展させる手法を修得する。</p> <p>(5 岡本 啓子／5回) 国内外の文献検討を通して、学校保健・学校看護に関する研究の動向を探究するとともに、研究課題へと発展させる手法を修得する。疾病・障害のある子どもと家族が地域で自立して生活ができ、子どもが安心・安全な学校生活を送ることができる支援システムの開発に寄与する研究・教育について探求する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	在宅看護学特論	<p>国内外の文献を検討材料とし、在宅看護分野の高度看護実践における看護職の役割と機能、在宅看護に関わる諸現象について教授・探究する。(オムニバス方式/全15回)</p> <p>((1) 乗越 千枝/6回) 国内外における在宅ケア研究の動向を学修するとともに、人々が地域・在宅において心身の健康と質の高い生活を維持できるように、継続的看護を提供するための方略、及び在宅看護への移行を促すディスチャージプランニングについて探求し、実践方法の開発の可能性を探る。</p> <p>(①) 小林 裕美/4回 国内外における在宅ケア研究の動向を学修するとともに、在宅における終末期看護及びその家族への支援について学修し、在宅看護の専門性について探究する。</p> <p>(4) 大橋 純子/5回 乳幼児から高齢者を対象に、在宅看護の健康課題に対する支援プログラムや地域ケアシステム、在宅療養者とその家族の主観的QOL、主体的行動変容に関する研究方法を学修するとともに、実践方法の開発など解決の可能性を探る。</p>	オムニバス方式
	在宅看護学演習	国内外の文献を検討材料とし、各自の関心領域・研究テーマの専門性を深めるとともに、博士論文作成における課題解決に必要なとされる理論と方法について学術的に探究する手法を修得する。	共同
	災害看護学特論	<p>国内外の文献を検討材料とし、災害看護に関わる高度看護実践における看護職の役割と機能について、また、災害看護における諸現象について教授・探究する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1) 山本 あい子/10回) 国内外の文献を検討材料とし、災害看護分野の高度看護実践における看護職の役割と機能について教授する。また、グローバルな視点から、災害看護に関わる諸現象を探究し、各自の研究課題に即して実証的に教授・探究する。</p> <p>(15) 亀井 縁/5回) 災害看護の実際について教授し、災害現場及び継続的ケアにおける看護職の役割を探究するとともに、各自の研究課題に即して実証的に教授・探究する。</p>	オムニバス方式
	災害看護学演習	国内外の文献を検討材料とし、各自の関心領域・研究テーマの専門性を深めるとともに、博士論文作成における課題解決に必要なとされる理論と方法について学術的に探究する手法を修得する。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 研究	看護学特別研究	<p>共通科目及び各専門領域の講義・演習を踏まえ、各自の研究課題に応じて各専門領域の教員の指導のもと、学術性の高い研究計画を立案し、研究活動を展開して、博士論文を作成するよう指導する。</p> <p>(8 高橋 (田代) 照子) 看護現象を理論的に解明するために、各自の研究課題に応じて概念分析を行い、看護実践・教育・管理の開発を探究する研究について論文作成指導を行う。</p> <p>(3 宇佐美 しおり) 気分障害、統合失調症、不安障害、人格障害、発達障害、認知症、外傷後ストレス障害患者および身体疾患で適応障害・うつを有する患者のセルフケアの実態、セルフケアへの介入技法、さらに行動化や自傷行為を繰り返すケア困難患者に対するセルフケアプログラムやPASセルフケアセラピーなど介入技法に関する研究を教授する。問題の陳述から文献検討、研究目的をしぼり研究方法を決定し調査、分析、結果、考察を行う研究の全過程を辿り博士論文の作成を指導する。</p> <p>(7 鈴木 眞知子) 小児看護学、家族看護学における文献レビュー、研究テーマの検討・決定、研究計画書の作成から研究の実施までの一連のプロセスを通じて、学生の研究テーマに沿い、小児看護学の視点から課題や問題と考えられる現象を探求するための研究指導を行う。</p> <p>(2 赤井 由紀子) リプロダクティブ・ヘルス/ライツを基盤に、周産期を含む女性の健康保持・増進及び疾病予防、健康回復に向けたケアを研究課題としている。さらに月経と睡眠をキーワードに準実験研究を行っている。研究課題に関して、文献検討を含めた博士論文としてまとめる研究の全過程を指導する。</p> <p>(12 松尾 ミヨ子) 慢性期看護の研究課題の究明に有効な理論、概念、研究枠組み、研究方法による研究計画を遂行することにより、研究目的から考察まで、論理的一貫性をもつ博士論文としてまとめる。最新の知見を活かした妥当性と信頼性を確保したデータ収集・分析・考察を行う。</p> <p>(10 福田 和明) 急性期・周術期・クリティカルケア看護領域において、学生自らの関心に基づき研究課題を焦点化し、看護を必要とする人々の回復促進に向けたケアモデルの構築、及び看護職者のケアの質の向上に寄与する研究を指導する。</p> <p>(9 西田 眞壽美) 老年期の人々とその家族の健康と生活を支えるケアモデルの構築につながる研究を行う。文献検索に基づき研究計画の立案、また倫理審査の受審を経て、計画に沿って研究を実施し、博士論文としてまとめる全研究過程を指導する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(13 山田 和子) 公衆衛生看護学研究の意義、特徴をふまえ、公衆衛生看護学領域において独創性、新規性のある研究テーマを実施する。テーマに関して文献収集、文献検討に基づき、研究計画の立案、倫理審査の受審、計画に基づき研究活動を実施し、後期課程の特別研究としてまとめる。まとめの全過程において指導する。</p> <p>(5 岡本 啓子) 学校生活における子どもの個人または集団の生活と健康の向上をめざした支援システムの構築につながる研究を行う。文献検索に基づき研究計画の立案、また倫理審査の受審を経て、計画に沿って研究を実施し、博士論文としてまとめる全研究過程を指導する。</p> <p>(16 小出 恵子) 公衆衛生看護学研究の意義、特徴をふまえ、公衆衛生看護学領域において独創性、新規性のある研究テーマを実施する。テーマに関して文献収集、文献検討に基づき、研究計画の立案、倫理審査の受審、計画に基づき研究活動を実施し、後期課程の特別研究としてまとめる。まとめの全過程において指導する。</p> <p>① 小林 裕美) 在宅で終末期を迎える人の家族支援モデルや在宅看護における臨床看護判断モデルの構築につながる研究指導を行う。文献検索に基づき研究計画の立案、また倫理審査の受審を経て、計画に沿って研究を実施し、博士論文としてまとめる全研究過程を指導する。</p> <p>(4 大橋 純子) 在宅で療養を行なう乳幼児から高齢者を対象にした在宅ケアシステム、および地域包括ケアシステム等に関する実践的な支援方法の諸問題の解決につながる研究を行なう。文献検索に基づき研究計画の立案、また倫理審査の受審を経て、計画に沿って研究を実施し、博士論文としてまとめる全研究過程を指導する。</p> <p>(1 山本 あい子) 災害に対する人々の備え行動の促進ケアモデルや災害後の人々の健康維持・向上に向けたケアモデルの構築につながる研究を行う。文献検索に基づき研究計画の立案、また倫理審査の受審を経て、計画に沿って研究を実施し、博士論文としてまとめる全研究過程を指導する。</p>	

学校法人四天王寺学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成 31 年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成 32 年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
四天王寺大学				四天王寺大学				
人文社会学部				人文社会学部				
		3 年次				3 年次		
日本学科	100	3	406	日本学科	100	3	406	
		3 年次				3 年次		
国際キャリア学科	90	5	370	国際キャリア学科	90	5	370	
		3 年次				3 年次		
社会学科	160	5	650	社会学科	160	5	650	
		3 年次				3 年次		
人間福祉学科	70	15	310	人間福祉学科	70	15	310	
教育学部				教育学部				
		3 年次				3 年次		
教育学科	240	17	994	教育学科	240	17	994	
経営学部				経営学部				
経営学科				経営学科				
		3 年次				3 年次		
公共経営専攻	40	2	164	公共経営専攻	40	2	164	
		3 年次				3 年次		
企業経営専攻	120	3	486	企業経営専攻	120	3	486	
看護学部				看護学部				
看護学科	80	—	320	看護学科	80	—	320	
計	900	50	3,700	計	900	50	3,700	
四天王寺大学大学院				四天王寺大学大学院				
人文社会学研究科				人文社会学研究科				
人間福祉学専攻(M)	10	—	20	人間福祉学専攻(M)	10	—	20	
人間福祉学専攻(D)	3	—	9	人間福祉学専攻(D)	3	—	9	
<u>看護学研究科</u>				<u>看護学研究科</u>				研究科の設置 (認可申請)
<u>看護学専攻(M)</u>	<u>6</u>	—	<u>12</u>	<u>看護学専攻(M)</u>	<u>6</u>	—	<u>12</u>	
<u>看護学専攻(D)</u>	<u>3</u>	—	<u>9</u>	<u>看護学専攻(D)</u>	<u>3</u>	—	<u>9</u>	
計	13	—	29	計	<u>22</u>	—	<u>50</u>	
四天王寺大学短期大学部				四天王寺大学短期大学部				
保育科	120	—	240	保育科	120	—	240	
生活ナビゲーション学科				生活ナビゲーション学科				
ライフデザイン専攻	100	—	200	ライフデザイン専攻	100	—	200	
ライフケア専攻	20	—	40	ライフケア専攻	20	—	40	
計	240	—	480	計	240	—	480	